

The Reality Behind What We See

— The Poet, Yoshimasu Gozo, in Kyoto

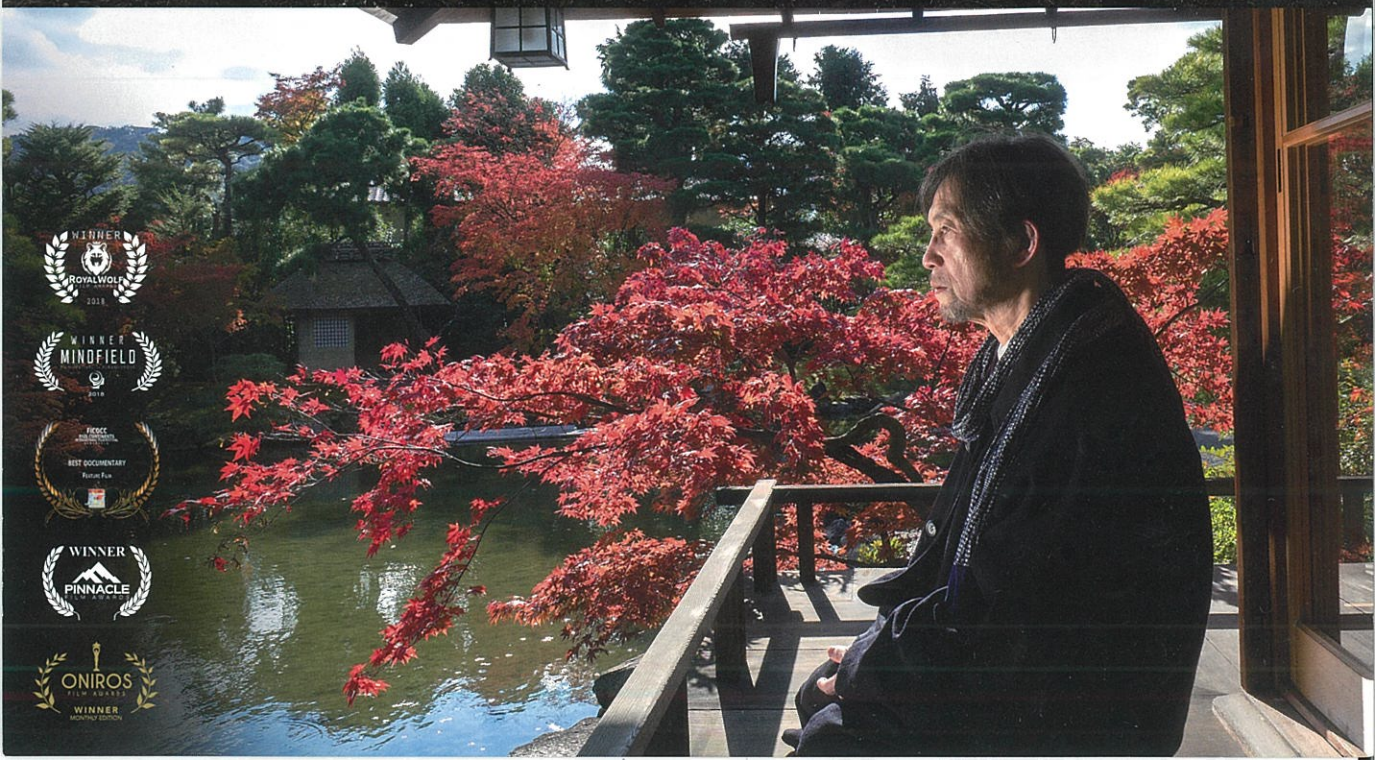
幻を見るひと

京都の吉増剛造

ドキュメンタリー映画

「映像のフォルム自体が、詩になっていると言ってもよいか。
剛造の思考が詩になるプロセスが見えてくる。
とてもよくできたドキュメンタリーだ。
詩と詩人についての、最高の映画だと思う」

—— ジョナス・メカス





The Reality Behind What We See
— The Poet, Yoshimasu Gozo, in Kyoto

幻を見るひと
京都の吉増剛造

「京都に、
龍を探しに
行きませんか？」。

東日本大震災の津波に衝撃を受け、言葉を失った吉増剛造を、詩人の城戸朱理が京都への旅の企画に誘った。一二〇〇年の歴史を持つ古都・京都は、琵琶湖の8割という豊富な地下水をたたえた、ヴェネツィアに比すべき水の都でもある。東洋の水の神である龍は、京都の豊かな水脈のメタファーだった。

四季を通じての舞台となったのは、岡崎の真澄寺別院流響院。東山を借景に「近代庭園の祖」七代目小川治兵衛が手がけた池泉回遊式庭園は、夢幻の別世界である。戦前は三菱財閥を率いた岩崎小弥太の京都別邸であり、川端康成が滞在して『古都』を執筆したところとされる。

春には豊臣秀吉の「醍醐の花見」で知られる醍醐寺、夏には京都の水神である貴船神社、秋には『古都』の舞台となった北山杉の産地・中川地区、そして冬には大徳寺瑞峯院、妙心寺――。

詩人は四季の京都を旅し、その水脈に触れた時、失った言葉をゆるやかに取り戻していく。この旅か





ら、「惑星に水の木が立つ」という新たな詩篇が生まれた。

妙心寺・法堂の狩野探幽「雲龍図」の下で、詩人が完成した詩篇を朗読する場面は、この映画のクライマックスと言えるだろう。

16の国際映画祭に招待され、5つの映画祭で最優秀作品賞・監督賞など8つの賞を受賞。「実験映画の父」ジョナス・メカスも感嘆させた圧倒的な「映像詩」が、今、ここに誕生した。

16の国際映画祭、 8つの賞に輝く「映像詩」

世界12大映画祭のひとつ、モントリオール世界映画祭をはじめ、アメリカ、アイルランド、イスラエル、ギリシャ、インド、スペイン、チリ、アルメニアなど、16の国際映画祭で、長編ドキュメンタリー部門のコンペティションに選出され正式招待された。アメリカ、イタリア、ベネズエラなど、5つの映画祭で最優秀作品賞・監督賞など8つの賞を受賞している。

ロイヤルワルフ・フィルム・アワード

(アメリカ・ロサンゼルス)

最優秀監督賞・ドキュメンタリー長編部門最優秀賞

マイノリティワールド映画祭アルバカーキ

(アメリカ・アルバカーキ)

最優秀監督賞・ドキュメンタリー長編部門プラチナ賞

五大大陸国際映画祭(ベネズエラ・プエルトリカルス)

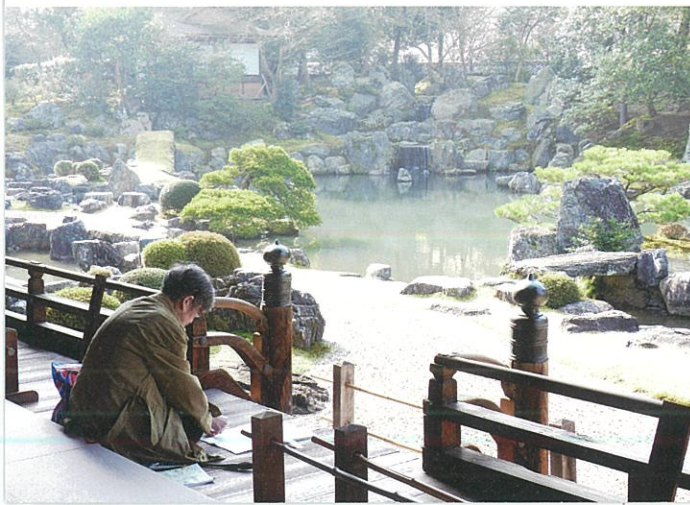
ドキュメンタリー長編部門最優秀賞

ピナックル・フィルム・アワード(アメリカ・ハリウッド)

ドキュメンタリー長編部門プラチナ賞

オニロス・フィルム・アワード(イタリア・オースタ)

オニロス金賞・伝記映画部門最優秀賞



詩人 吉増剛造 Poet | Gozo Yoshimasu

1939年生まれ。文化功労者、日本藝術院会員。主要な文学賞を多数受賞。
書くことに加え、朗読し、撮り(映像・写真)、旅することで詩を思考する。
年を重ねると共に表現が先鋭化している日本の代表的詩人である。
英訳作品は「ALICE IRIS RED HORSE」(NEW DIRECTIONS) など。

監督 井上春生 Director | Haruo Inoue

1963年生まれ。全国公開の劇場用劇映画13本を重ね、
CMやテレビを含め映像作品は500本以上を数える。
資生堂など、CMでも多数の賞を受賞。
近年、アフガニスタンの映画監督らと合作映画を撮るなど
枠を超えた映像活動をしている。

出演: 吉増剛造

監督・編集・プロデューサー: 井上春生

エグゼクティブプロデューサー: 城戸朱理

スチル・AP・配給プロデューサー: 小野田桂子

*

撮影: 安田浩一

情景撮影: 大木スミオ(J.S.C.)

照明: 渡辺大介

デジタルイメージングテクニシャン: 岩崎伸哉、森田順

録音: 中村太郎、奈良田信一

整音: 白井康之、石黒裕二

制作: 山本礼二、保中良介、赤塚敏史

プロダクションマネージャー: 白崎裕美子

翻訳監修: 「惑星に水の木が立つ」翻訳: 遠藤朋之

翻訳: 甲斐菜穂美

翻訳ライター: クレイグ・デール

短歌翻訳: マイケル・フェスラー

朗読: 大鷹明良、小林あや

英語朗読: マーク・カーボンティエ

タイトルデザイン: 井原靖章

出演協力: 大友良英 協力: 鈴木余位

撮影協力: 醍醐寺、妙心寺、大徳寺、瑞峯院、貴船神社
叡山電鉄、京都北山丸太生産協同組合

特別協力: 真澄寺別院 流響院

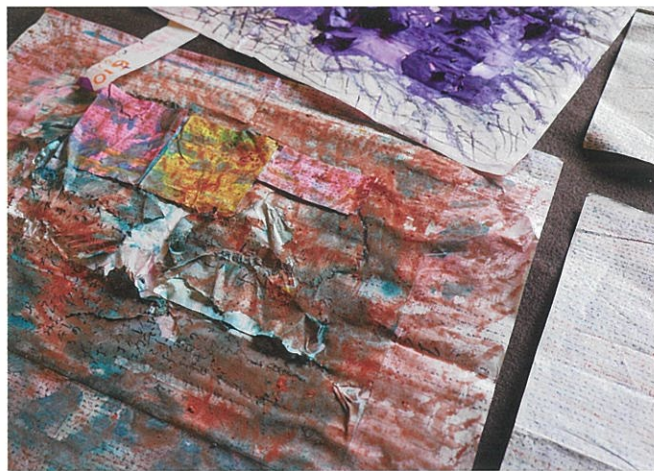
企画協力: 真如苑

*

制作・配給: HUGMACHINE

製作: 「幻を見るひと」製作委員会

2018年/107分/映倫121439



◆問い合わせ: HUGMACHINE (白崎) info@hug-machine.com <https://www.maboroshi-web.com>

Design: Yasuaki Ihara

東京都写真美術館ホールにて7日間限定ロードショー

JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分 恵比寿ガーデンプレイス内

☎03-3280-0099 www.topmuseum.jp

11/24[土]・25[日]・27[火]～30[金]・12/2[日]

① 13:20 | ② 15:40 | ③ 18:00

◆吉増剛造の朗読、井上春生・城戸朱理の舞台挨拶あり
[11/25、11/28 = マリリアも共演、12/2 いずれも③の回上映後]

予告なく変更
となる場合が
ございます

◆井上春生と城戸朱理の舞台挨拶・トークあり [11/24 ③の回上映後]